令和５年度さいたま市立与野南中学校　学校だより

南風（みなみかぜ）

第１１号

令和５年１２月２２日発行

http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp

＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒　心豊かな生徒　心身共に健康な生徒

冬休みは何をしようか・・・

校長　吉原誠士

昭和４０年代までは、カラー印刷はまだ職人芸の領域でした。すべての色は三原色を混ぜれば再現可能ですが、印刷屋さんは現物の色を自分の目で分析し、機械の上でインクを調整していました。厳密な再現を求める美術全集や博物館刊行物の印刷をしていて腕がいいと評判の父親の仕事場を何回か見たことがあります。私が宿題の絵を描くそばで絵の具のチューブを手に取り、見えたままの色彩を作れてしまうのも納得でした。職場にいる親の姿を見学させることは、子によい影響を与える大切なことだと感じています。もっとも、現在は原画を構成する色彩はコンピュータが即座に解析してくれます。時代が下ると父もMacintosh（マッキントッシュ）（Apple（アップル）社製のＰＣ）を使っていました。印刷機の性能も上がり、美術館等の図録は、写真の再現性も専門家による解説もハイレベルで、内容を考えれば決して高価ではありません。

図録愛に目覚めてしまうと持ち帰りに苦労する分厚いものであってもついつい購入してしまいます。最近は「ダムカード」や「御墳印」といった、コレクション癖やコンプリート欲を刺激する罪作りな書品もあり、県立歴史と民族の博物館でやっている「縄文コードを読む」という企画展（新年は１月１４日まで）でも同様です（もちろん図録もある）。縄文土器には個性的なものが多くて興味が尽きないところですが、当館の他、県内８か所の博物館や資料館等も協力して、それぞれで「埼玉縄文カード」を配っているのです。全１４種あり私はあと４種類を残すところですが・・・さすがに本庄や飯能まで足を延ばせるかどうか。また、蓮田市文化財展示館はこれとは別に独自のカードを発行していて（全部土器！）、入場無料ながら２４回も足を運ばねばなりませんが・・困ったものです。

“モノ”に踊らされなくても、置いてある物をとことん観察し、説明を読み込むこともいいでしょう。ピンポイントで“それだけ”を狙うような見学も構わないと思っています。私自身も葛飾応為（北斎の娘）の「吉原格子先之図」が３年ぶりに公開されると聞き、原宿に行きました。バンダナを頭に巻いた男がこの浮世絵の前に長時間佇む姿は怪しかったに違いありません。しかし、事前予約、そして立ち止まりも規制されるような状況からも解放されたのです。まあ、同じ日の別の展覧会場は“要予約”とあり油断したことを悔いましたが。そこで気を取り直して動物園に寄ることにしました。パンダはスルーして、マレーグマとハシビロコウだけを眺め、閉園時間までの２時間半を過ごしました。“動かない鳥”の方が活発なくらいで、あちらは“動かない人間”に呆れていたのかもしれません。

国立科学博物館の「和食」展は実際に食事ができる訳ではありませんが面白い企画です。展示物のすべてが図録に掲載されている訳ではない、会場で写真を撮ることもできるといった趣の異なるものでした。丹念に並べられた品々を追い、掲示物を読んだりメモしたりするという、基本に忠実な巡り方となります。本校の給食は美味しいことでは市内随一なのです、ここを訪問することで食に対する関心を高めたり、毎月登場する和食メニューへの理解を深めたり、調理の腕を上げたりすることにも役立ちそうです。ぜひ足を運んでみてください。埼玉県にも東京都にもいろいろな施設があります。短い冬休みですが年末年始の開館時間を確認して巡り歩くことをお勧めします。あるいは駅伝の応援か・・・全選手の通過はあっという間、そのあと小田原の有名店で蒲鉾を購入したのが懐かしく思い出されます。